

前進座 ひとごころし

言わせて! 今日の芝居 五十字劇評 No.43

▼「臆病者の普通の人間が一番怖い」という台詞が深く印象に残りました。一人は無力ですが、皆が力を合わせれば変えられる事があるんだと思いました。(女性)

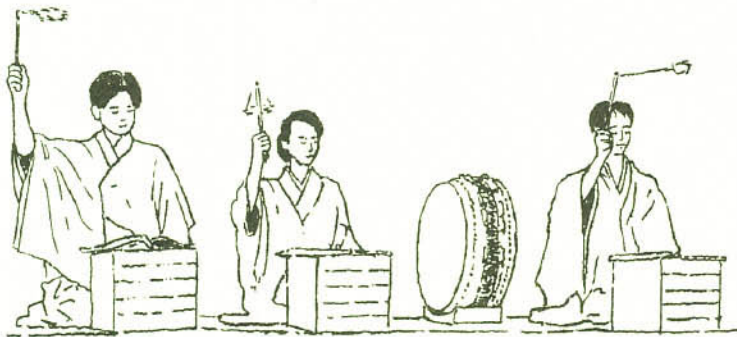
【六〇代】
▼物事は捉え方でプラスにもマイナスにもなる、あら

ためてそんな事を考えた面白いお芝居でした。(女性)
▼やっぱり、前進座！喜劇なのに大笑いもしないで、静かに楽しみました。軽妙な芝居人間っていいな！(女性)

▼劇評ならぬ猛省。山本周五郎+前進座、期待はいや増すばかりだった。しかし、どうも印象が薄い。同行者によれば、私はコツクリしていたらしい。いや！大失敗。短い芝居だからと気が緩み体調管理が甘かった。チラシは観劇者の「豊かな感性と想像力に依拠した舞台」。機関紙「銅鑼」によれば「想像力をフルに働かせて、皆さんの頭のなかで完成します」と。返す返すも残念。作り手がいくら頑張っても受け手がこれじゃ…。前進座さん申し訳ありません。(男性)

▼剣豪に対して剣ではなく何で立ち向かうのか、臆病者がどのように仇討ちするのか、この設定がとても面白いと思う。臆病者であることを逆に「強味」にしている。臆病であることは、慎重に物事に対処することでもある。臆病者であることが周知の事実であれば、それ以上に失うものは何もない。「臆病者だが、卑怯者ではない」という主人公の台詞が、この作品の重要なキーワードであると思う。この作品のテーマは、弱い者が強い者に、小さな存在が巨大な存在に対する時に、どう対処するのか。いろいろと考えさせてくれる。前進座の舞台は、いつも安心して観ていられる。今回もしっかりした演技と良く通る声、美しい所作を感じた。ただ、今回の作品を、今回

のように思い切りそぎ落とした舞台でやるのと、本格的な舞台装置の設定でやるのでは、どんなふう違うのかなと、ふと思ったりした。(男性)





▼強さと弱さ。武士(男)として。人間として。一対一でなく、群衆を巻き込んだ戦いに、ある種の知性と執念がにじむ。(女性)
▼喜劇一幕と言うけれど、もっと深みのある話だったはずだけれどなあと思って観ているうちに終わってし

まった。何か心に響いてくるものがない。なぜ?もつと演劇らしい舞台としての工夫があつてもよかつたのではないかと。(男性)
▼舞台の四人だけで、十分想像力を高めることができまし。臆病者が「ひとごろし」と叫ぶことで剣術の達人を追いつめていく。剣に対するのは剣ではなく、強い者に弱い者が勝つ。最後は、罪人の命も助け、六兵衛は嫁ももらい、めでたしめでたしでした。(女性)

【七〇代】

▼緞帳が上がり舞台に四人俳優さんが座っているの、珍しく挨拶から始まると思つたら、びっくりそのままお芝居が始まった、楽器・道具などを使つての鈴虫・風・犬などなどの音を見事に出していたのがすばらし

かった。特に私には、舞台側から六兵衛さんに犬が吠えているように見えました。上意討ちは、臆病な人がどうするかと思えば相手をみつけ「ひとごろし」と叫んだのには驚きでした。最後は侍のシンボルの鬘を切つてめでたしめでたしでしたが、お芝居は何か物足りない感じがしました。(女性)

(女性)

▼次はどんな場面かとワクワク。題名がいやだったが、なるほどと思いました。音具や擬音がぎやかで楽しかった。(女性)

(女性)

▼おもしろかったあ。上沢さんが男三人をひきつれていようで気分良く見られた。歌舞伎の所作や音曲も若者がしっかり受け継いでいる。(女性)

(女性)

▼場面転換が早くて、ついていくのが大変だった。短

かったのに疲れた。老化防止には大いに役立ったのでは。(女性)

(女性)

【年齢・性別不明】

▼ひとごろしと共に叫びたい衝動にかられました。山本周五郎をすっかり味わい、心が豊かになる思いでした。みんなに観せたいですね。演劇の面白さを!今こそ!

編集スタッフから

今年も6本の観劇!この時代に観られたことに感謝しています。コロナ危機でおおきな打撃が続き心配されます。今こそ「公助」国費を投入した「文化芸術復興基金」が必要です。引き続き私達も支えていきましょう。来年も文化会館で!そして今日の芝居の感想をお待ちしています。